様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 23 年　5 月　6 日現在

機関番号：64401
研究種目：基盤研究（A）
研究期間：平成 20 年度～平成 24 年度
課題番号：20251011
研究課題名（和文）　大規模災害被災地における環境変化と脆弱性克服に関する研究

研究課題名（英文）　Catastrophic Natural Disasters: Studies of Environmental and social Change and Activities to Reduce Future Vulnerabilities

研究代表者
林　勲男（HAYASHI ISAO）
人間文化研究機構・国立民族学博物館・准教授
研究者番号：80270495

研究分野：人文学Ａ
科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学
キーワード：文化人類学、自然災害、脆弱性、環境対応、民族誌

１．研究計画の概要

本研究は、大規模な自然災害の被災地においてエスノグラフィー調査を実施し、災害による自然・社会環境の変化を地域社会はいかに受け止め、次の災害に備え、その社会が持つ脆弱性をどう評価し、その克服に向けていかなる取り組みをしているのかの実態を明らかにするものである。調査対象地域は、(1)1998 年 7 月発生のパプアニューギニアのアイタペ津波被災地であるサンダウン州、(2)2001 年 1 月発生のインド西部地震被災地のグジャラート州カッチ地方、そして 2004 年 12 月に発生したインド洋地震津波災害被災地である(3)インドネシアのアチェ州、(4)南インドのタミールナードゥ州、(5)スリランカ南部州、(6)タイのプーケット県・パンガー県で、すべて地震と津波の災害被災地である。

２．研究の進捗状況

メンバーは、それぞれの調査対象地域に関して文献調査と現地調査を実施し、必要に応じて比較研究のため、他の被災地でも調査を行ってきている。そして、被災から復興にかけての被災地内で展開する支援活動を含めたさまざまな活動の実態の詳細を明らかにするとともにデータを分析し、それぞれの地域的特質を抽出している。

パプアニューギニアのサンダウン州やインドネシアのアチェ州では、集落ごとの移転が実施されたが、学校や医療施設などの公共サービス施設を内陸に移転しても、自然環境に依存する漁業従事者の場合は、生業のための利便性を重視し、時間の経過とともに沿岸の旧居住地に戻ることを選択している。防潮堤や防波堤の建造が難しい途上国の場合、沿岸部の居住者は津波や高潮に備え、内陸への早期の退避行動がとれるかどうかが課題となる。

スリランカ南部州やタイのプーケット県・パンガー県では、もともと世界的な観光地であり、観光産業の復興による経済の再建が重視された。その一方で観光産業に従事する海外からの労働者や居住地に土地権を持たない少数民族は、災害前同様に経済的にも社会的にも弱い立場に置かれたままである。被災した場合の補償や生活再建のための担保を持っていないわけで、彼らの災害に対する脆弱性は相変わらず高い。それぞれの国内外からの支援によって住宅は確保したとしても、就ける仕事がなかったりもする。

インドのカッチ地方のように、地場産業を立地させてきた自然環境に変化が生じたため、その産業の維持・発展のために居住地移転を余儀なくされるケースも生まれている。

以上のような状況が、災害以前および災害後のさまざまなファクターの相互関係の結果として生まれていることが明らかとなてきている。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）当初の計画による調査地に加え、新たに発生した災害の被災地を、比較研究のために調査している。負担は増しているが、データは順調に収集できている。

４．今後の研究の推進方策

東日本大震災の発生により、本プロジェクトのメンバーで、とりわけ津波被災地を研究する者は、日本国内被災地の被害から復旧・復興の状況を視野に収めた研究が求められる。同時にこれまでの研究成果を、東日本大震災被災地の復興や住民の生活再建にむけて寄与できるものにしていきたい。すでに、

インド洋地震津波災害を対象とした林（編著）『自然災害と復興支援』（明石書店、2010年）を、出版社の好意によってウェブ上から無償でダウンロードできるようにした。同書には、本プロジェクトに参加する５名が分担執筆している。東日本大震災被災地では、被災した土地の再利用、まちづくり計画、集団移転、主要産業の再建などが重要課題となっている。研究計画にある海外被災地の調査でもこうした事項にはすでに着目してきているが、今後さらに重点に置いた調査研究を実施する。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

① Norio Maki, Naohiko Yamamoto, Khairul Huda, Long Term Recovery from the 2004 Indian Ocean Tsunami Housing Recovery in Banda Aceh, Proceedings of 14 ECEE, CD-ROM, 2010, 査読有

② Seiko Sugimoto, Antonysamy Sagayaraj, Yoshio Sugimoto, Sociocultural Frame, Religious Networks, Miracles: Experiences from Tsunami Disaster Management in South India, Pradyumna P. Karan and Shanwugam P. Subbiah (eds.), The Indian Ocean Tsunami, The Global Response to a Natural Disaster, University Press of Kentucky, 223-235, 2010, 査読無

③ 柄谷友香・高島正典、水害後の訴訟回避に向けた地域リーダーの対応と役割－行政と住民をつなぐコミュニケーション・ルールの検討－、地域安全学会論文集、13 号、471-479、2010 年、査読有

④ 林　勲男、災害とエスノグラフィーとインタビュー、自然災害科学、27 巻 3 号、236-241、2009 年、査読無（投稿依頼論文）

⑤ 牧　紀男、スマトラ沖地震からの復興－現地再建と居住地移転－、減災、3 号、21-29、2008 年、査読無

〔学会発表〕（計５件）

① Saito, Chie, Women's empowerment and islam in Post-Tsunami Aceh, Association for Asian Studies and International Convention of Asian Studies, 2011 年 3 月 31 日, Honolulu.

② 山本直彦, 耐震補強の次に何を考えるか、「学術研究と人道支援：2009 年西スマトラ地震で壊れたもの・つくられるもの」東南アジア学会春季大会、2010 年 6 月 6 日、愛知大学

③ Yoshio Sugimoto, Politicizing Miracles: Socio-religious Power Relations and Post-Tsunami Spread of Miracle Stories in Tamilnadu, 2010 Association of American Geographers Annual Meeting, 2010 年 4 月 17 日、Washington DC.

④ SAITO, chie, Tsunami and Tourism in Aceh: Islamic Interpretations of the Indian Ocean Tsunami, Association for Asian Studies, 2010 年 3 月 27 日, Philadelphia Marriott Downtown

⑤ HAYASHI, Isao, Building Resilient Culture to large Scale Earthquakes: Activities of Voluntary Associations in Kushimoto-cho of Wakayama Prefecture, Japan, International Symposium: Towards a Culture of Resilience, 2010 年 2 月 15 日, Center for International Studies, Univ. of Philippines, Metro Manila.

〔図書〕（計１件）

林勲男(編著)、明石書店、自然災害と復興支援、2010 年、420 頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕